

中国経済の現状と未来

土木工学の生産能力過剰により、関連する鉄鋼、建築材料、内装材料、およびその上流産業である石炭・石油化学工業の生産能力も大量に過剰となっています。現在、土木工学はもはや景気が良くなり、徐々に生産能力を削減しており、今後数年間で必然的に大量の失業者を生み出すことになるでしょう。

住宅の販売がますます難しくなり、多くの不動産開発業者が倒産や破産に追い込まれ、資金を持ち逃げするケースが相次いでいます。これにより、建設途中の建物が放置される「爛尾楼」問題が発生しています。購入者は資金と物件の両方を失う状況に陥っています。政府も土地の売却による収入が大幅に減少し、財政が逼迫しています。

一般市民の財布の中のお金が大量に住宅ローンや家賃に流れ込んでいます。パンデミックの影響で、もともと弱かった国内消費がさらに縮小しています。一人の支出は他の人の収入です。ほとんどの業界では、今やお金を稼ぐことが非常に難しくなっています。

コロナ禍の影響で、一般市民は節約できるところはできるだけ節約し、消費をできるだけ減らしています。しかし、家賃や住宅ローンは依然として支払わなければならない、今後10年、20年も支払い続ける必要があります。住宅の頭金や住宅ローンの返済資金は、しばしば親戚や友人、そしてさまざまなオンラインレンディングプラットフォームから調達されます。そのため、社会の余剰資金は家賃や住宅ローンに集中しているのです。

今後数年間、大多数の一般市民は歯を食いしばって生活し、住宅ローンを返済し、家賃を払い、食事をするようになるでしょう。そのため、生活必需品以外の業界の企業は非常に苦しい状況に置かれ、倒産が増え、失業者がさらに増加し、それがさらに消費の縮小を招き、悪循環に陥ることになります。

安定した企業にしがみついたサラリーマンは、それなりの収入を得て、できるだけ節約に努めています。しかし、節約して貯めたお金は2年後にはまた住宅に消え、今は住宅が安いと感じています。中には浪費家で貯金ができない人もいれば、節約家で貯金をしている人もいますが、結局はどちらにしても住宅を購入することになります。あなたが買わなければ私が買う、というわけです。住宅購入が最も重要で、家を持たずに他の製品やサービスに多額の消費をして、健全な消費を促進するような人は、社会の愚か者と見なされます。したがって、未来においても不動産業界は厳しい状況ですが、他の業界よりもまだましです。そして、今や不動産業界も不振であることを考えると、他の業界がどれほど厳しい状況かがわかります。

そのため、状況は悪化し続け、人々は家と食事以外には消費をしなくなり、それによって収入を得ることも難しくなります。その結果、失業者が増えていきます。失業して借りる場所もなく、住宅ローンを返済できなくなると、最終的には銀行が家を取り上げ、割引価格で売却することになります。これによる損失は購入者が補うことになり、購入者は家を買わなければまだいく

らかのお金を持っていたのに、今では負債を抱え、同時に家も取り上げられるという状況に陥ります。

銀行は土木工事業界に大量の融資を行い、不動産開発業者やインフラ建設請負業者に資金を提供しています。しかし、不動産開発業者は住宅を売却して現金を回収し、融資を返済することができません。多くの鉄道、道路、橋梁は車両がほとんどなく、回収までの年月は見通せません。同時に、銀行が個人に貸し出した住宅ローンも回収不能になるケースが増えています。銀行が破綻し始め、国家がそれを引き継ぎ、現金の壁を築き、一般市民が通常通り引き出せるように現金を準備しようとしませんが、そのお金はすでに存在しません。国家は大量の紙幣を印刷してこの穴埋めをせざるを得ず、その結果、インフレが発生します。現在、国の経済は信頼によって維持されていますが、もし一般市民が大量に預金を引き出すような事態が発生すれば、銀行はすべて破綻するでしょう。

過去 10 年間の中国は巨大な建築現場であり、その繁栄は何千万もの住宅購入者の住宅ローンに支えられてきました。これにより、何億もの家庭の未来数十年分の収入が前借りされ、それらは大量の住宅や道路、鉄道、橋梁などのインフラ建設に費やされてきました。

多くの高速道路や橋は車の往来が少ないのに、なぜ国は依然としてインフラ建設に力を入れているのか。なぜそのお金を国民の福祉向上に使わないのか。その答えは明らかです。プロジェクトがあればこそ、利益が生まれるからです。国民全員にお金を配ったとしても、一部の人々にどんな利益をもたらすことができるでしょうか。

都市での住宅購入がまだ叶わず、家賃も負担できない若者たちが、農村に戻り始めています。彼らは養殖や栽培に従事したり、臨時の仕事をしたりして、農村では生活コストを最低限に抑えることができます。

明らかな事実として、現在の一般市民は製品やサービスに不足しているわけではなく、むしろお金が不足しています。小規模な実店舗や小企業、個人事業主はますます苦しくなっています。なぜなら、大企業でさえも困難を極めており、何万人もの従業員を抱えるインターネット大手でさえも巨額の赤字を出し、全力を尽くしても利益を上げるのが難しい状況です。ましてや小企業や個人事業主にとってはなおさらです。起業して製品を作る場合、Apple 社よりも革新的で優れたものが作れるのでしょうか？それは天を仰ぐほど難しいことです。そして、Apple でさえも不動産の前では自らを恥じるほどです。一般市民は、食事以外のすべての製品やサービスを捨てても、10 年、20 年と節約してでも、一軒の家を手に入れることを望んでいます。今ではますます多くの人が住宅ローンを返済できなくなっており、Apple やその他の革新的な製品やサービスにまで手が回らない状況です。

ここ 2 年間、香港や米国に上場した中国企業の株価はほとんど半値以下に下落し、その多くはまだ赤字を出しています。2018 年や 2019 年には経済環境が悪化し始めましたが、今年ほど悪くはなく、それほど悪くない状況でも利益を上げることができませんでした。未来に希望はあるの

でしょうか。また、これらの企業は経費を削減できないのでしょうか、それともまだ投資期にあるのでしょうか。そうではありません。彼らはあらゆる手段を尽くしても利益を上げることができず、必死に努力しても一般の人々に彼らの製品やサービスを買ってもらうことができないのです。広告は全国に打たれましたが、まったく効果がありませんでした。なぜなら、人々はお金を稼いで貯金し、家を買ったり住宅ローンを返済したりすることに忙しく、他のことに気を配る余裕がないからです。2020 年になり、これからの日々はさらに厳しくなるでしょう。なぜなら、一般の人々は依然として巨額の住宅ローンを抱えており、今後何年も余裕資金を持たずに消費することができないからです。

不景気の時期には、株式投資について語る人が増え、今では仮想通貨の取引も盛んです。なぜなら、他のことをして稼ぐのは難しく、株式や仮想通貨で一か八か賭けるしかないからです。

人々はお金を必要としていますが、あらゆる手を尽くしてもお金を稼ぐことができず、次第に諦めてしまいます。破産して店を閉め、起業をやめる選択をする人もいます。本業を持っている人でも、副業を見つけて家を買うためのお金を増やしたいと思っても、お金を稼ぐことがあまりにも難しいため、諦めてしまうのです。失業した場合は、まず親と同居したり、田舎に戻ったりして、できるだけコストを抑え、食べていくだけで精一杯です。

そのため、人々は何もすることがなく、多くの時間を過ごすために、TikTok をスクロールしたりゲームをしたりしています。ますます多くの人が退屈で、不安を感じているがどうしようもなく、仏系になり、一日食べられればそれでいいという状態になっています。トップのエンターテインメントコンテンツやゲームはより多くの人に見られたりプレイされたりするでしょうが、人々はお金を消費する余裕がありません。人々はただ時間をつぶしているだけです。

人々は皆お金に困っているが、なぜ物価はどんどん上がり、競争が激化して会社や店が値下げして顧客を奪い合わないのだろうか。それは、製品やサービスの価格を上げなければ、会社や店が生き残れず、家賃を払えず、給料を支払えないからだ。注文や客が減るにつれ、価格を上げざるを得ない。価格を下げても、より多くの注文や客を引き寄せることはできない。だから、現在減少している顧客に対して値上げをして、生き残ろうとする。しかし、これも一時しのぎの策に過ぎない。なぜなら、大環境として消費が継続的に縮小しているからだ。必然的に最後には耐えられなくなり、破産や閉店に至る。

大都市圏に複数の不動産を所有する人々や、数十年にわたって努力を重ねてきた成功した起業家など、高純資産を持つ家庭では、より多くの人々がトレンドを理解し、不動産価格の下落に直面して、売却を選択し、米ドルに換えるか、海外移住を選ぶでしょう。これにより、国家の外貨準備が減少し、闇の両替や移住ビジネスが活発になります。高純資産家庭は、財産を守るために手段を選ばないでしょう。

1929 年から 1933 年の大恐慌の際には、道路やダム建設に大規模な投資を行い、困難を乗り越えることができました。しかし、現在では道路、橋、ダムは十分にあり、過去 10 年間で土木工

事への投資は膨大でした。2008 年の金融危機では、中央銀行が数兆円を投入して市場を救済することができましたが、過去 10 年間で既に多くの通貨が過剰に発行されています。今は手詰まりで、使える手段はすべて使い果たしてしまいました。

以上は、私の周りの友人や社会に対する観察のまとめと、未来についてのいくつかの思考推論です。社会で何年も苦労してきた経験から、生活の難しさをよく理解しています。その中で、皆さんが家を購入することに反対しているわけではありません。ただ、リスクに注意を喚起するために書いているのです。

私たちは皆、底辺の庶民であり、誰もが大変な思いをしています。日々、生活のために必死に働き、毎日残業を重ね、あるいは就職先が見つからずにいます。私がこれを書いているのは、これらすべてが私たちの過ちではなく、私たちの能力が足りないわけではないことを伝えたいからです。何万人もの従業員を抱えるインターネット大手企業でさえ、自らを養うことができなくなっています。私たちは自分を責める必要も、悲しむ必要もありません。